

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401947		
法人名	社会福祉法人 静雲会		
事業所名	グループホーム 静園		
所在地	長崎県南島原市口之津町乙3476		
自己評価作成日	令和 2年 8月 28日	評価結果市町村受理日	令和2年11月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和2年10月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれた環境の中で、入居者が安心してゆっくりと生活できる様な環境の中で支援を行っている。同法人には保育園があるために、子供たちの定期的な慰問や敬老会での交流があり、入居者と一緒に歌や踊りを楽しんでいただいている。季節感のあるレクリエーションのきかくを行い、花見や餅つき大会、風船バレーなどの積極的な活動の支援を行っている。スタッフのスキル向上のために独自の勉強会や、資格習得のための支援を事業所として行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは橘湾を一望できる自然に囲まれた静かな環境の中にある。入居者は天気の良い日にはホーム玄関先から橘湾や周りに広がる景色を眺めることで気分転換が図れるほか、地元保育園児との交流や神社の祭事の際に来る神輿が入居者の楽しみとなっている。ホームは地域住民から手づくり雑巾の進呈や介護に関する相談を受けるなど地域と日常的に交流するとともに、消防訓練の際には地元消防団が参加し有事における地域との協力体制を築いている。入居者の体調不良時には日中・夜間を問わず協力医療機関に相談できる体制を整えており、入居者・家族の安心へと繋げている。職員は入居者が寂しく感じている時に家族との電話を取り次ぐなど、馴染みの人との関係継続支援に努めている。また、定期的に行うフロア会議で職員の接遇面や入居者の転倒を防ぐためにはどのような環境づくりが必要であるのかを話し合うなど、日々の振り返りを行いながらサービスの向上に繋げている。外に出たいと希望する方には納得するまで一緒に散歩を行ったり、傾聴したり入居者の心情に寄り添うことで心健やかに過ごせるよう支援している。入居者本位の温かな雰囲気が窺えるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット名 静園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づき、その方らしく、お一人おひとりを尊重した支援を心掛け、職員間で共有しながら支援に努めている。	ホーム理念をリビングに掲示し、業務中に職員が確認できるようにすることで周知を図っている。職員は2か月毎のフロア会議で支援内容を振り返り、支援の方法に迷った時は理念に基づいた支援の原点に立ち返り話し合いながら実践に繋げている。また、各フロアで理念に沿った月目標を設定し実践することで、入居者の笑顔へと繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	病院や理容室など、今まで通われていた所にお連れし、地域との繋がりを無くさないように努めている。	ホームは自治会の回覧板を通して地域の情報を得るほか、地域住民からの手づくり雑巾のプレゼントや介護相談を受けるなど、日常的に交流している。また、同法人地元保育園児との交流や神社の祭事の際に来る神輿が入居者の楽しみとなっている。更に消防訓練の際には地元消防団が参加し、有事における地域との協力体制を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	資格を持った専門員もいて、勉強会や話し合いを通じて施設内での意識向上には繋がっている。しかしながら地域に向けた活動までには至っていない。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議内で、日常支援の取り組みについても外部の方の意見を聞くことによって、職員間の意識向上にも繋がり、サービスの質の向上に活かされてる。	運営推進会議には島原地域広域市町村圏組合職員・民生委員・家族・地区代表の参加があり、活発な意見交換の場となっている。今年度はコロナ禍に伴い開催困難であったため、入居者状況やヒヤリハット報告並びに身体拘束に関する研修の詳細を各委員へ郵送し意見をj得ている。ホームでは得た意見をもとにサービスの質の向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包括支援センター等には入居者空き情報なども伝え、相談などある時には密に連絡を取りながら協力体制を築けている。	ホームは運営推進会議や介護認定更新の際に、空床状況やホームの実情について行政担当者へ伝えるなど、協力関係を築くよう取り組んでいる。また、地域の居宅介護支援事業所や医療機関の地域医療連携室にも空床状況を伝え、相談しやすい関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、今現在おこなっていない。その都度話し合いの場を設け、勉強会等も行っている。	職員は昨年度、島原地域広域市町村圏組合主催の「高齢者虐待防止法と身体拘束」の研修会に参加し、理解を深めている。今年度は管理者による身体拘束廃止に関する勉強会を実施し、日々の支援内容について振り返りの機会を持った。外に出たいと希望する方には納得するまで一緒に散歩を行ったり、傾聴したりすることで心健やかに過ごせるよう支援している。また、内服薬について主治医へ相談し、不必要な服用にならないよう努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	フロア会議等でも、職員間で支援についてストレスをためないように話し合いを行いながら、虐待用心として意識するように心がけている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	難しい内容までは理解できてはいないが、勉強会等で学ぶ機会もあり、利用者の活用については施設長や管理者が関連機関と話し合う機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については、施設長や管理者が十分に説明を行い、わかる範囲であれば職員でも対応を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時には、コミュニケーションを図り、一か月に一回はお手紙にて情報をお伝えする中で要望などにも応える機会を設け、運営にも反映している。	職員は面会時に笑顔で対応し、家族が意見や要望を述べやすい雰囲気づくりに努めている。入居者の状況について、2か月毎に写真付きの便りを家族へ送付することでホームの理解に繋げるほか、入居者からの要望をその都度家族に伝えている。入居者や家族からの要望は生活記録に記入し、職員で共有を図りながらサービスの向上に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やフロア会議の中で、意見を聴く機会を設けている。又、個別には、管理者や副管理者が意見などを聞き、施設長と対応を行っている。	2か月毎に開催するフロア会議で職員からの意見を募るほか、管理者が職員にこまめに声を掛けることで相談しやすい雰囲気づくりに努めている。ベッドの高さや布団の厚さ、トイレ介助の時間帯や介助方法を検討するなど、職員からの意見をもとに変更することで入居者の安全へと繋げている。また、各フロアの月目標についても職員意見をもとに設定している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善や賞与がある。研修会などの参加を勧めている。しかし給与賃金については一般に介護職の水準が低いので気持ちが落ちることがある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の能力や、実務経験年数に応じた研修会等に参加させていただいている。また、職員が分かるように掲示板に研修会の案内について貼りだしである。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に参加しながら発表の機会などもある。しかしながら、職員間の交流までには至っていない。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の生活歴等を知るために、入居時は何でもシートを利用し、家族にもお尋ねしながら、本人が安心して生活できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が安心でき、利用者を任せられるように話し合いを重ねている。職員間で情報を共有しながら、家族の訪問時にはコミュニケーションを図れるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の生活歴や、生きてこられた人生を大切に考え、本人ができることを見極めながら、ケアプランに添って対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできることを理解し、お一人おひとりに合わせた支援を考え、共同生活の中で、職員も人生の先輩として学ぶ姿勢を忘れずに支援を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時にご家族と利用者だけの時間を心掛け、お手紙にて日頃のご様子を知らせ、関係が途切れない支援に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	病院や理容室など、今まで通われていた所にお連れし、地域との繋がりを無くさないように努めている。	職員は入居者と遠方の家族とのコミュニケーションや、入居者が寂しく感じている時に家族との電話を取り次ぐなど、馴染みの人との関係継続支援に努めている。また、入居者にとって思い入れのある行きつけの理容室へ職員が付き添ったり自宅付近にドライブへ行ったりするなど支援している。知人等の面会時には居室でゆっくりと過ごせるようお茶を出す配慮を行うほか、帰る際には「また来てください」と声掛けしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆が集まれるホールに、利用者同士が自然と集まり、ゆっくりとお話をされる機会がある。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了すると、ご家族とお会いする機会も殆ど無くなる。施設長はお参り等でご家族とお会いされた内容などを、時々伝えて下さる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ゆっくり出来る部分はして頂き、困難な場合は、本人が負担を感じない程度に声掛け等を行い、会議等でも話し合いを行い検討を行っている。	ホームでは入居前の担当ケアマネジャーに最終ケアプランを確認し、入居者に関する様々な情報について提供を受けている。入居後には入居者に関する気づきを「何でもシート」に詳細に記入し、本人の生活習慣や好むこと・苦手なこと・不快に思うことなどを把握することで、入居者が望む生活が送れるよう支援している。職員は入居者の表情や返答の仕方などいつもと異なる場合は観察と傾聴を行い、思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	お一人おひとりの情報シートを作成し、職員間で共有しながら、個々の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々様子を観察し、普段と違う場合は職員間で話し合い、常に現状の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスにより評価を行い、担当者を含め、意見交換を行い、ケアプランに反映されている。家族の思いや、医療機関の意見なども反映されている。	ケアカンファレンスには入居者・家族・施設長・計画作成担当者・担当職員が参加しており、入居者の満足度やケア項目修正の必要性と理由について記載したモニタリング表をもとに検討することで、現状に即したケアプランの作成に努めている。また、カンファレンスの記録を職員が共有することでサービス内容の統一を図るとともに、生活記録にもケアプランの内容を記載し、毎日確認することで意識付けを図っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一枚の記録用紙に工夫されているため、職員間でも反映されている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ケアプランに添いながらも、日々の利用者の状態に応じて、柔軟な支援が行われている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活用しつつ、毎日の生活安全に楽しく生活できるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の状態に応じて、往診などの対応も行っている。医療機関とは、看護師等が連絡を図りながら支援に努めている。	職員は入居前からのかかりつけ医を受診できるよう支援しており、遠方への受診の場合は家族の協力が必要となる旨入居時に説明し、同意を得ている。ホームには毎月協力医療機関による訪問診療があるほか、夜間急変時にも別の協力医療機関協力のもと、早期対応へと繋げている。看護師が記載する看護日誌には専門的知見からの詳細な状態変化と受診時の医師の所見を記載し、適切な医療が受けられるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	その都度、報告を行いながら指示を仰ぎ、病院受診等に対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	定期的な受診等で病院と連携を図っている。入院時には、医師と相談しながら早期退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、施設における重度化や終末期に向けた説明を行い同意を頂いている。現在看取りは行っていない。	現在、看取りは行っていないが、入居時に家族へホームが対応し得る最大のケアと看取りの指針を説明し同意を得ている。尚、医師の指示のもとでホームでの点滴や尿道カテーテルの管理は可能であり、注意事項等についてもその都度看護師より指導があり、職員の学びの機会としている。今後はグループホーム連絡協議会主催の看取り研修会に参加する予定である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設勉強会等で、緊急時の対応について訓練を重ねている。ホームにて消防署立ち合いの講習会に参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年に4回の避難訓練を行っている。火災だけではなく地震などの災害についても避難体制を強化している。地域の自治体に入り、施設として協力体制が構築できるように努めているが、近隣に家がなく、高齢の方が多いため協力を得がたいのが現状である。	ホームでは火災を想定した避難訓練を年3回実施し、緊急対応マニュアルの職員への周知に努めている。昨年度はコロナ禍のため地域住民は訓練に参加していないが、今年度は地元消防団の参加を予定している。備蓄品は年1回防災の日(9月1日)に担当職員が期限の確認を行うほか、運営推進会議にて入居者とともに備蓄食を食し、内容の検討を図る予定である。今後は災害時における停電時の対応に備え発電機の購入を検討している。	有事の場合に備えて緊急対応マニュアルの準備や職員の役割分担を取り決めているとのことだが、職員のマニュアルへの理解や役割分担の周知状況に課題が窺えた。マニュアルの周知並びに訓練の振り返りを行うことで、有事の際の早期対応に繋げることを期待したい。また、備蓄品に関し、例えば生活用品を加えるなど、より備蓄品を充実し整備することに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩ということを頭に置き、言葉かけを行い、個々の尊厳を大切に考えた対応を行っている。	ホームではフロア会議で職員の入居者への日々の対応について振り返りを行い、人格を尊重した言葉掛けとなっているか再確認の機会としている。不適切な言葉掛けがあった時は職員同士で注意し合い改善に努めている。居室に入る際はノックをし、声掛けをしてから入るなど、プライバシーを損ねないように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が落ち着ける環境を整えながら、自己決定できるような声掛けを心掛けて行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴時や食事時間などは、希望に添って行っているとは言い難い。しかし、一人ひとりのペースで希望を汲み取りながらの支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時のみだけでなく、普段より整髪や髭剃りなどの身だしなみ等には気をつけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けなどにも役割を持って頂いたり、昔流行っていた音楽を聴きながら、楽しい雰囲気作りに努めている。	食事の時には職員も一緒に食卓を囲み、音楽を流しながら楽しい雰囲気づくりに努めている。食事は入居者の状況に応じて刻み食・トロミ食で対応するほか、入居者のリクエスト食の提供や苦手な物は代替食で対応するなど、食事が楽しみなものとなるよう支援している。野菜の差し入れが家族からあった際には、畑で収穫した昔の思い出話をするなど、昔のことを思い出す機会に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録等に記入しながら、体調管理を心掛け申し送り等で、職員間で情報を共有し、本人の状態に合わせた支援に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き、口腔ケアを行っている。1人で困難な方は職員付き添い、介助にて口腔ケアをおこなっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの状態に合わせた排泄介助を行っている。オムツ使用の方でも、声掛けを行いながら、トイレ誘導を行い自立に向けた支援に努めている。	職員は生活記録で入居者の排泄パターンを把握し、時間を見て誘導したり声掛けを行ったりすることでトイレでの排泄へと繋げている。また、オムツ使用の時間帯や種類をフロア会議で検討し排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。排泄失敗時には居室にて交換し、必要に応じて清拭を行うなど皮膚疾患の予防に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定期的なトイレ誘導を行い、トイレでの排泄介助に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間帯を利用者に合わせるなど、入浴を楽しむ支援までは行えていないのが現状である。	車椅子を使用する方について、ホームでは浴室内の移動など安全に入浴できるようシャワーキャリーを使用している。職員は入居者の希望に応じて入浴時間の検討や好みのシャンプーを使用し気持ち良く入浴できるよう支援しており、入浴後にはかかりつけ医処方軟膏や保湿剤を塗布し、皮膚疾患の予防に努めている。浴室と脱衣所は暖房器具や扇風機で室温調整を行い、温度変化による身体への負担軽減に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの睡眠時間や生活リズムの把握に努め、夜間帯に、快適に安眠できるような支援に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬がもたす副作用などについても理解を深めている。薬の投薬についてはチェック体制を強化している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	御仏飯をあげたり仏様えのお参りをされる方や、お菓子やコーヒーなど個々の好みや時間でたのしまれ気分転換は出来ている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に添えるようにできる限りの支援に努めている。	職員は天気の良い日にはホーム玄関先から橋湾や景色を眺めながら外気浴を行い、入居者の気分転換を図っている。入居者が家族と外出する際には本人の日頃の様子や排泄状況を伝えたり、車椅子の貸し出しを行ったりするなど、外出が楽しいものとなるよう支援している。ホーム玄関には『車椅子介助方法マニュアル』を掲示し、車椅子の安全な使用へと繋げている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	主に事務所にて管理しているが、家族了解の基に、ご自分で持たれることもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人に変わり、毎月のお便りにて、日頃の生活状況を伝えたり、携帯電話を使用してご家族との会話を楽しませている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体を通じて、くつろげる環境に考慮して、時には季節感を感じていただけるような花や物を置くようにしている。	リビングの大きな掃き出し窓からは明るく温かな光が入り、橘湾を眺めることができるほか、テーブルには季節の花が飾られ香りや目で見て楽しむことができる。対面キッチンで調理をする職員の姿や料理の匂い、音を感じることができ、家庭的な雰囲気がある。入居者が趣味活動で制作した塗り絵などを掲示し、趣味活動の継続に繋げている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広いホールにソファや椅子を置き、利用者同士が話しやすい工夫をしたり、畳の部屋でも寝ていただけるような場所も整えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンス以外は、使い慣れた馴染みの物を使用させていただき、お仏壇や姿見なども置かれている利用者もおられ、本人の居心地の良い空間となっている。	居室にはベッドや整理棚など使い慣れた物を持ち込んでもらうことで、入居者が居心地良く過ごせるよう配慮している。室内には家族写真や友人との写真・書写・家族からの手紙・来訪した保育園児からの贈り物などが飾られており、明るい雰囲気がある。仏壇を持ち込んでいる方については、毎朝お茶とご飯を供えられるよう職員が支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全室バリアフリーであり、手すりや個人用のトイレもあり、快適に安全で自立した生活が送れるように配慮を行っている。		

自己評価および外部評価結果

ユニット名 静雲

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が見えやすい場所に提示してあり、理念について話し合う機会もあり、職員の共通した指標となっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	病院や理容室など、今まで通われていた所にお連れし、地域との繋がりをなくさないようにしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	園内では認知症の方の理解するための勉強会等も行っているが、地域に向けた活動までには至っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出た意見などは、全体会議等で職員間にも伝われ、サービス向上に活かされている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターや、介護事業所とも密に連絡を図りながら、研修会等も計画されるなどの協力関係は築かれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を行い、周知徹底されている。声掛けなどについても職員同士で心掛けている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行い、周知徹底されている。声掛けなどについても職員同士で心掛けを行い、虐待になっていないか確認に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については、研修会に参加している。市町機関と連携を図りながら活用できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設長・管理者がご家族の契約の際には十分説明を行っている。また、ご家族が不安に思うことなどについては各受持ち担当者や副管理者なども対応を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第三者委員を入れ、意見等を聞く機会を設けている。また、利用者に対して各担当者を決め、細かい意見も言いやすい環境を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やフロア会議等で職員の意見や要望などを聞く機会を設け、運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望休を設けたり、資格等を目指すものに対しては、施設より研修会への参加を呼びかけ、向上心を持って仕事ができる環境に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全体会議やフロア会議にて、勉強会を行う機会を設けている。管理者研修や3年以上経つ職員には、実践者研修への参加ができるように努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協議会における研修会や、風船バレー大会などのネットワーク作りを行っているが、職員間での交流とまでは至っていない。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	カンファレンスに利用者も参加していただき、直接本人からも日常の不安や希望を聞き機会を設け、日常の支援等に反映させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期段階に施設長や管理者が家族関連機関からの情報などを聞き、利用者が望まれる支援や家族の不安等に対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを利用される前に、できる限り本人とご家族には来援して頂くように努め、直接見て雰囲気などを感じていただいたうえで、話を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	野菜皮むきや洗濯物たたみなど、利用者の体調に合わせて、共に生活を送るものとして単調な生活にならないようにつとめている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお手紙において、利用者の日頃の様子などをお伝えし、来園時にはお部屋やホールにて、ゆっくりお話しできるように配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	理容室や病院などは、本人が今まで通われていた馴染みの場所や機関にお連れするよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係に配慮した席の配置や、一人の方が孤立されないように配慮した声かけ等も行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	運営推進会議メンバーとして現在も協力して下さるなど馴染みの関係を断ち切らないように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一方的なこちらの思考にならないように、利用者の何気ない日常での会話などにも耳を傾け、本人の希望や思いを把握するように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や生活の記録をまとめてあり、ケアプランの中にも、短期目標が職員に意識できるよう配慮されている。また、話し合いの時にも、それらを利用しながら話し合いが行えるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録や申し送りノートなどを活用しながら、利用者の日々の対応に活かしている。また、利用者の急な変化に対しては特記事項などに記載し、職員全員で対応できるように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	フロア会議やカンファレンス棟で話し合いを行い、意見など反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活の記録を個人で記載をし、食事量なども細かく記録を残しながら、職員間で共用し、日々の介護計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ケアプランのみにとらわれず、利用者の体調に合わせ、本人の意向を聴きながら対応ができるように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	医療機関と連携を図りながら、本人が生きる意欲が持てるように支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族が望まれる場合は、医療機関と連携を図りながら速やかに受診できるように支援を行っている。利用者の体調の変化時、受診を行った場合は結果等を必ずご家族にお伝えしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状態の変化については、バイタル測定などで職員間で共有し、急な変化があれば看護師へ報告し病院受診や往診を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	協力医療機関と連携を図りながら、利用者の状態に応じた対応を話し合い、ご家族とも相談しながら早期回復に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化や終末期の説明を行い同意を頂いている。利用者の状態に応じてその都度説明を行こなっている。現在看取りは行っていない。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設勉強会等で、緊急時の対応について訓練を重ねている。ホームにて消防署立ち会いの講習会に参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年に4回の消防訓練を行い、火災だけではなく地震などの災害についても避難態勢を強化している。地域の自治会に入り、施設として協力体制が構築できるように努めているが、近隣に家がなく、高齢の方が多いため協力は得がたいのが現状である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者お一人おひとりの人格に配慮した声かけに努めている。利用者同士の言い合いなどになった場合は、職員が間に入り、お互いが気分を損ねないように声掛け等を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望を聞き、ケアプランに反映させている。利用者の体調に合わせた声掛けをおこないながら、自己決定を促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴時間やレクリエーションの時間などは、施設の都合に合わせてしまうことがある。利用者の希望に添えているのかと考えると難しい時がある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時や行事の時などは、女性の方は化粧をしたり身だしなみには気配りをしている。起床時には、髪の毛を整え、寝間着から着替えるなど身だしなみに配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の簡単な皮むきや、配膳を手伝っていたり、利用者が役割を持ちながら、食事を楽しめるように、季節の花を飾るなどの工夫もやっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録等に記入しながら、体調管理に心かけ、お一人おひとりに合った支援に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き、口腔ケアを行っている。一人で困難な方は職員が付き添い、介助にて口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お一人おひとりの状態に合わせた排泄介助を行っている。オムツ使用の方でも声掛けを行いながら、トイレ誘導等を行い自立に向けた支援に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	お一人おひとりの状態に応じて、医療機関と連携を図り、看護師と相談しながら、水分量や薬を調整して予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の入る順番などには配慮をしているが、入浴時間帯については個々に応じた対応はできておらず施設の都合に合わせているのが現状である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の体調や季節に応じた温度調整や、照明の調整、衣類などの配慮を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の利用者に与える影響を職員は十分理解し、誤薬が起こらないようにチェック体制も強化を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	単調な毎日にならないように心掛けながら、利用者の体調に合わせた支援が行えるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に応じたレクリエーションを企画したり、利用者に応じた外出の機会を設けている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の状況に応じて、家族と相談したうえで、本人がお金を所持している方もおられる。普段は事務所金庫にて預かり、利用者の希望によって買い物等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいと言われる場合は、好きな時間に何時でも掛けることが可能である。個人で携帯電話を所有されている利用者もおられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、レクリエーションの時の写真を掲示しながら季節感を共有し、楽しめるように配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアに畳の場所があり、そこでゆっくりされる利用者もおられる。季節の花を飾り、訪問された方が何時でもゆっくり話せるように椅子なども用意してある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの椅子や、家族の写真などを置き、本人が自宅にいた時のような居心地の良い環境になるように配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者が安全に安心して移動できる空間を心掛け、居室が分かるように目の高さにご本人の名前を掲示するなどの工夫も行っている。		